

# 三上 斎太郎（みかみ・さいたろう）

## 1、プロフィール

超現実派詩人として、昭和初年代に創作活動をする。詩誌「信号燈」・「北」（1・2次）、「座標」、「東奥日報」などに詩、詩評を発表、県詩壇の有力詩人として活躍した。

<生没>

1909(明治 42)年9月7日 ~ 1983(昭和 58)年 11 月9日

<代表作>

『三上斎太郎詩集』

<青森との関わり>

弘前市に生まれる。青森師範学校卒。小学校教員となる。戦後労農運動に従事した。弘前市に在住し、死去。

## 2、作家解説

詩人。明治 42 年石川町(現弘前市)に生まれる。昭和2年東奥義塾卒業。この年、同人誌「わらはど」に参加する。翌3年県立青森師範学校本科二部卒業。小学校教員になる。12 月工藤正一と詩誌「信号燈」創刊、超現実主義の詩を発表。翌4年9月、「信号燈」を改題して「表情の骨灰」を創刊。県下総合文芸雑誌「座標」に参加のため、廃刊する。翌5年、詩・詩評を「座標」に発表。翌6年1月、「座標」の左傾化に反発して、一戸謙三・藤田金一らと脱退する。3月詩誌「北」(第一次)に参加。「北」・詩誌「空間」などに詩を発表。翌7年、生活綴方教育活動を始める。翌8年「北」(第二次)に参加、詩を発表。「北」終刊後、12月創刊の詩誌「府」の同人となる。以後、詩作から離れていく。昭和 16 年、治安維持法違反容疑(生活綴方事件)で6ヶ月拘禁され、敗戦まで保護観察に付される。昭和 21 年、日本共産党に入党。その後、労農運動に従事する。昭和 31 年頃から「弘前文学」に加わり、評論活動を始める。昭和 36 年8月、『三上斎太郎詩集』を刊行。昭和 58 年 11 月

9日、弘前市において74歳で死去。昭和初年代、超現実主義派の有力な詩人として、県詩壇において活躍した。

### 3、資料紹介

○『三上斎太郎詩集』

図書

1963(昭和38)年8月1日

150mm×180mm

詩集。昭和38年8月1日発行。発行所弘前文学会。内容は序文「戦前のこと」  
一戸謙三、昭和5年から同7年までの詩17篇を収録。本集の詩は超現実主義の  
色濃い影響のもとに、詩作されている。